

2024年度 遺愛女子高等学校遺愛女子中学校
学校評価 第三者評価報告書

今回の評価（第三者評価）は、これまでと同様に川畑浩之氏に評価委員を委嘱して実施した。

以下、そのレポートを掲載する。

2024年度の学校評価は、7月15日（月）の私立高校進学フェア、16日（火）の学校訪問、10月19日（土）の中学生のキャリア教育と午後的高校募集の入試ガイダンスの見学を行い、21日（月）に面談による評価・診断である。また併せて、学校から提供された各種資料を参考になっている。

（7/15私立高校進学フェア）

函館市内の私立高校8校が公立中学生を対象とした私立高校の合同説明会

（10/19高校募集の入試ガイダンス）

遺愛女子高等学校の体育館を会場で、公立中学生を対象とした学校紹介や2025年度入試・募集要項の説明を行うイベント

（10/19キャリア教育）

教員が東京で働く20代の卒業生にインタビューをする企画である。対象は中学1年から3年として、遺愛女子高等学校の学校生活や大学受験に向けての取り組み、社会人生活の様子を紹介する企画

（調査資料等）

- ・ 函館地区私立高等学校入学数
- ・ 函館私立8校入学数推移
- ・ 渡島第1学区中卒数
- ・ 令和3年度私立高等学校入学数推移（2009～2024年）
- ・ 全国学力テスト 2016から2024年
- ・ 進研模試の結果 2024年度 7月記述
- ・ 高校3年卒業間際アンケート 2024年3月
- ・ 教職員自己評価アンケート
- ・ 学校満足度結果推移（2016～2018）

- ・ 学校案内 高校 2025 年入学案内
- ・ 学校案内 中学校 2025 年入学案内
- ・ 入試要項 高校 2025 年
- ・ 入試要項 中学校 2025 年
- ・ 進路資料 2024 年度
- ・ 2024 年遺愛中学校ミニ見学会資料
- ・ 2024 年遺愛中学入試対策会Ⅰ配布資料
- ・ 2024 年遺愛中学入試対策会Ⅱ配布資料

1. 総合的な評価

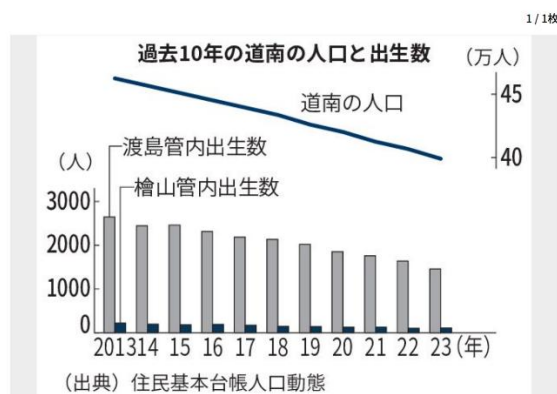
(1) 評価

創立150年の遺愛女子中学校高等学校（以下、本校）は、進路実績や入学者推移やヒアリングや各種アンケートによると、在校生、地域に支持されている私学と評価できる。学校として、「確かな進路実績を出すこと」が生徒募集に繋がるという方針があり、とりわけ大学受験に向けた教育活動が実践されている。

これまでも本校は「確かな進路指導」から、十分な進路実績を出している。その成果を出すために、これまでのデータや卒業生の取り組みを整理した「進路資料」という冊子を発行して活用している。データ等に基づいた進路指導を行う点を評価する。

一方、今後生徒を獲得するのは厳しくなる。理由はとりわけ地域の出生数の減少が止まらない点である。学校経営を考えると、今後の対策などは大きな課題である。

函館の出生数千人割る 2023年 渡島・檜山は10年で4割減



(北海道新聞 2024年2月13日 21:26(2月13日 21:50更新))

(2) 2024年3月・2023年3月の進路結果・合格実績

① 2024年3月

卒業生 222名

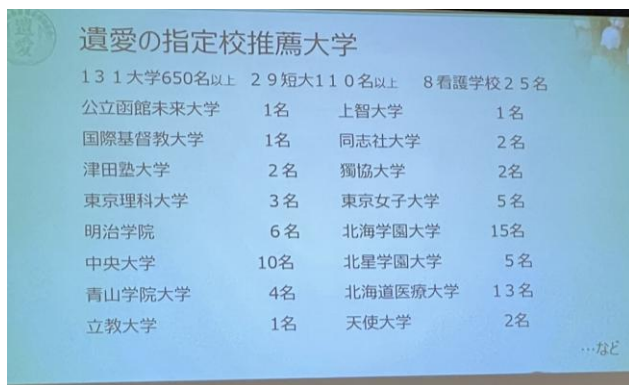
合格実績および進路：国公立大学26名 私立大学199名 短期大学15名
看護大学31名 専修学校58名 就職11名

② 2023年3月

卒業生 265名

合格実績および進路：国公立大学26名 私立大学148名 短期大学18名
看護大学23名 専修学校25名 就職5名

(3) 指定校推薦大学の一覧



13 1 大学650名以上		2 9 短大11 0 名以上		8 看護学校 2 5 名	
公立函館未来大学	1名	上智大学	1名		
国際基督教大学	1名	同志社大学	2名		
津田塾大学	2名	獨協大学	2名		
東京理科大学	3名	東京女子大学	5名		
明治学院	6名	北海学園大学	15名		
中央大学	10名	北星学園大学	5名		
青山学院大学	4名	北海道医療大学	13名		
立教大学	1名	天使大学	2名		

(学校説明会でのスライド)

これまでの取り組みが評価されて、上記のように「多くの指定校推薦の枠」を獲得できている。学校説明会では、進路を決めることができた高校3年生が「充実できた学校生活」を紹介されており、確かな進路を実現できる学校とPRができています。

2. 教育活動の成果について

進路・合格実績からの学校評価として

① これまでの調査・アンケートから

アンケートを見ると、「国公立大学」「難関私大」への進路を希望する保護者に対する期待に応えている。「子どもの個人面談をはじめ学校サポート」も評価が高い。これは、大手予備校の映像講座を採用するなど、上位大学に進学を希望する生徒への教育サポートにも着手している成果であろう。

また、年度ごとに作成している「進路資料」は、質の高い進路情報が掲載されている。この冊子には統計資料、合格体験記、指定校推薦大学、進学講習時間割、学習の手引きが掲載されている。この資料の活用が高い合格実績を出せていることの要因のひとつであろう。

② 合格実績 2024年度と2023年度

(2024年度 主な合格実績)

□ 国公立大学 26名 以下 主な実績

京都大学1名 北海道大学2名（総合理系・看護） 札幌医科大学1名（医）
東京外語大学1名 埼玉大学1名 新潟大学1名
札幌市立大1名 北教大5名 弘前大学4名

□ 早慶上智理科大学 ICU 4名

上智大学1名 東京理科大学2名 ICU1名

□ MARCH 18名

明治大学1名 青山学院5名 立教大学1名 中央大学9名 法政大学2名

(2023年度 主な合格実績)

□ 国公立大学 26名 以下 主な実績

東京大学1名 北海道大学3名（医・薬・総文） 札幌医科大学1名（医）
静岡県立大学1名（薬） 東京農工大1名 信州大学1名 金沢大学1名
札幌市立大1名 北教大4名 弘前大学3名

□ 早慶上智理科大学 ICU 18名

早稲田大学5名 慶応大学2名 上智大学9名 ICU2名

□ MARCH 17名

明治大学1名 青山学院3名 立教大学1名 中央大学11名 法政大学1名

(コメント)

早稲田大学と慶応大学の合格者数はいないものの、国公立大学や MARCH の実績は例年通りに出せた。2023年度から新らしく「進路通信」の発行をはじめると、変わりゆく「新しい大学入試」の対策を行っている。

3. 生徒募集のイベント

(1) 7月イベント：公立中学校の生徒・保護者向けの合同説明会

【全体会場】



(私立高校進学フェア)

【遺愛女子中高の井上教頭による学校紹介】



(私立高校進学フェア)

【学校ごとのブースを設営しての個別相談】



各高校が学校の特色をボードに貼付
個別相談に対応をする形式



公立中学生は大きく2つの希望を持つ

- ① 第1希望の公立高校の併願校を探す
- ② 私立専願（第1希望）の生徒がいる

（私立高校進学フェア）

（2）10月学校開催の生徒募集イベント

【入試対策勉強会】



生徒募集の業務は大きな負担である。一方、募集活動のために学校教育を点検して、特色づくり、教育の質を上げることもできると位置づけて取り組まなければならない。
イベントの運営などは、丁寧な運営を行っているので高評価である。

4. キャリア教育

【卒業生3名と中学1・2・3年生、司会進行役の先生】

10月19日（土）午前 3・4時限



先生が司会役となり、卒業生3名に「質問・やり取り」を行う形式であった。中学生活の様子、教科の学習方法、大学入試に向けての取り組み、社会人として働いている様子などを聞く機会となった。この取り組みはこれまでも実施しているし、キャリア意識を高める企画をいろいろな取り組みをしている。生徒の「キャリア意識」を高めることが目的である。この目的と同時に話を聞く姿勢、コミュニケーションの取り方、批判的な思考力など、いわゆる非認知能力を高める機会になる企画にするべきと考える。

非認知能力を高めるためには、今の形式でよいのかどうか検討をする。あくまでもひとつの案であるが、教師主導ではなく生徒主体で企画を考えるところからはじめてもよいのではないか。

5. 今後、取り組むべき課題など

先に述べたように、学校教育の評価は高く、創立150年の「財産を感じる」点も多い。魅力ある校舎、落ち着いた生徒の様子なども評価できる。ただ、地区の人口減少は歯止めがきかないこともあり、今後は「大きな変革」が必要である。そのためには教職員がこの事情を理解しながら「何を残し」「何をやめるのか」という点を考え、言うならば「これから150年続く学校づくり」のための新構想を立てるべき時期にある。

（文責 有限会社 Edu 企画 川畑浩之）